

<p>体力向上プログラム 等活用による 体育科の充実</p>	<p>○体力向上の結果をによる体力向上プログラムを踏まえた体育科の授業やスポーツタイムの充実を図る。習得のために山之口小サークットの活用を推進する。</p>	<p>体力向上のA判定児童が19名で全体の7.2%であった。昨年度より伸びた項目は男子が21項目女子が23項目あり、サーキットトレーニングの効果が見られた。今年度は、新たに屋内サーキットトレーニング計画を作成し、全学年で取り組んだ。今後は、更に内容の改善について検討したい。</p>	<p>・家庭での生活習慣に関する状況は、朝食の摂取状況など、今まで以上にきめ細かく調査し、結果をつかんでいくことが大切である。それに基づいて手立てを講じてほしい。 ・ゲームの使用状況についても把握していくことが大切である。ゲームやタブレットの影響など心配電話等への使用について保護者へ啓発に努めてほしい。</p>
<p>健康や安全に関わる基本的な生活習慣の定着</p>	<p>○健康・安全に関わる基本的な生活習慣の定着のために、家庭と連携して「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発に努める。</p>	<p>早寝・早起き・朝ごはんについては、保護者や児童の約8割が身に付いていると考えている。しかし、登校後に体調不良を訴えた児童の多くは、早寝・早起きができていない。保健便りを発行して家庭への啓発を行う。児童への指導の徹底を図ったりしたが、今後更に、生活習慣についての指導の徹底に努める。</p>	<p>3</p>
<p>健康結果を活用した健康な体づくり</p>	<p>○自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。</p>	<p>むし歯の治療率は約6.5%で昨年度を上回った。保健便りのほか、対象者に手紙を出したり、学校保健委員会で歯に関する講演会を実施したり、機会あることに啓発を続けた結果であらう。しかし、治療が終わらない児童が固定化しているので、今後も更に個別の対応に努めていく。</p>	<p>3</p>
<p>弁当の日等を利用した食育の推進</p>	<p>○食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実を努める。</p>	<p>弁当の日を毎学期1回、遠足の日に実施しており、親子で楽しんで取り組んでいる。食育について家庭で話題にしていると回答した保護者は約7割である。食育に関する講演会を地区全体で実施した。今後も更に、各家庭での実践へ広げよう啓発に努める。</p>	<p>・学習支援ボランティアとして紹介した方が、学校とつながり、自分力を生かすことができている。今後、この取組を継続していただきたい。 ・オンラインスクールに参加して大変よかつた。地域と学校の距離が近くなったと感じた。また、子ども共にも、通うことで、共通の美意識がよくなり、見えてきた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>コミュニケーションの整備・充実</p>	<p>○学校と地域(住民)のつながりを強めるために、コミュニケーション体制を活用し、学習支援・環境整備等がオンライン教材を充実させる。</p>	<p>児童の約9割、教師の約8割が地域住民やボランティアや花植えボランティア、学校運営協議会・環境整備ボランティアの活用が今まで以上に図られた。また、オンラインスクールの実施形態について、学習支援など大きな成果を上げることができた。</p>	<p>3</p>
<p>P・T・A活動・家庭教育学級の活性化</p>	<p>○家庭の教育力向上や、生涯学習機会提供のために、P・T・A各専門部活動の活性化の支援に努める。</p>	<p>家庭教育学級を9回実施した。また、各学年で親子レクリエーションを実施し、ふれあいの機会の充実に努めた。職員もP・T・A専門部の一員として、各種の取組に協力した。参観日の懇談会への参加者が少ないので、参加意識の醸成に努める。</p>	<p>3</p>
<p>一貫性・系統性のある連携教育</p>	<p>○保幼小中の連携強化による一貫性・系統性・継続性のある指導の実現</p>	<p>小中一貫教育山之口プロジェクトでは、「知育」「徳育」「体育」「ふるさと教育」の各部会に分かれて、漢字・計算テストを実施したり、挨拶運動をしたりするなど、小中の連携が図られた。保幼小においても、交流会を計画するなど、小1キヤッチに対する対策を図っている。</p>	<p>3</p>
<p>各種メディアを活用した学校情報の発信</p>	<p>○学校の教育方針や教育活動への理解を促進するために、文書・メール・WEB・SNS等各種メディアの活用を努める。</p>	<p>学校フェイスブックやホームページを活用して、運動会や収穫祭などの学校行事を中心とした教育活動の様子を伝えることができた。安心・安全メールを活用し、速効性のある情報発信に努めた。保護者や地域の方からの反応も良く、学校への理解を深めることができた。</p>	<p>・今後は、自然体験にも積極的に取り組むことも大切である。</p>

たくましい体づくり

開かれた学校づくり